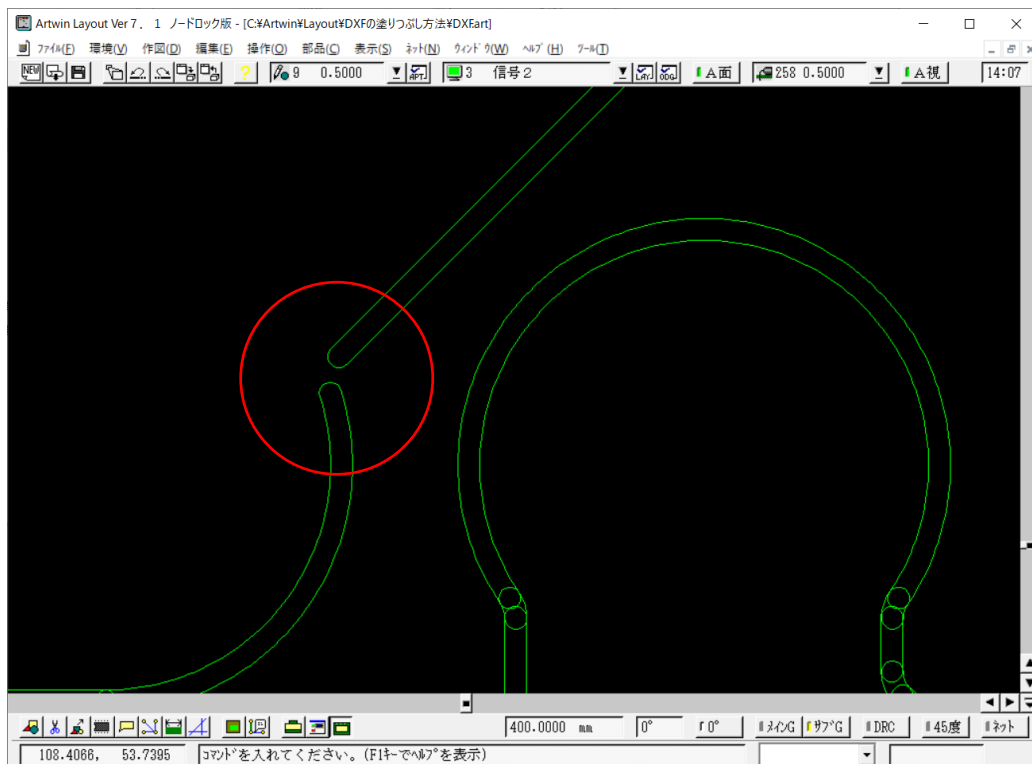
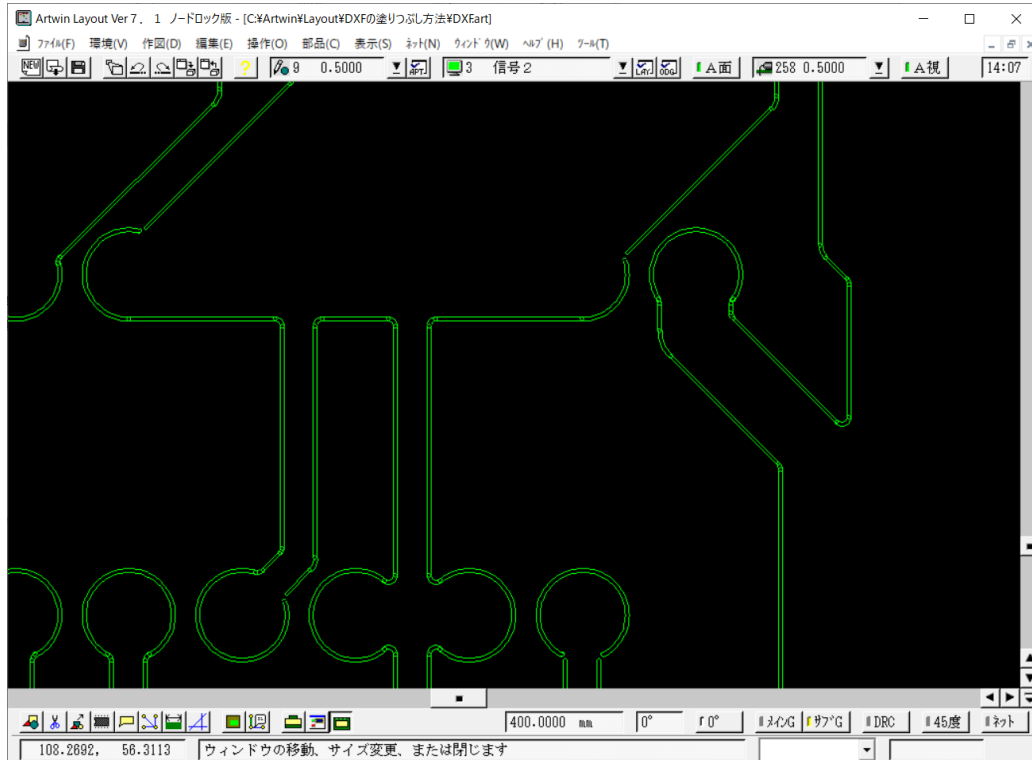


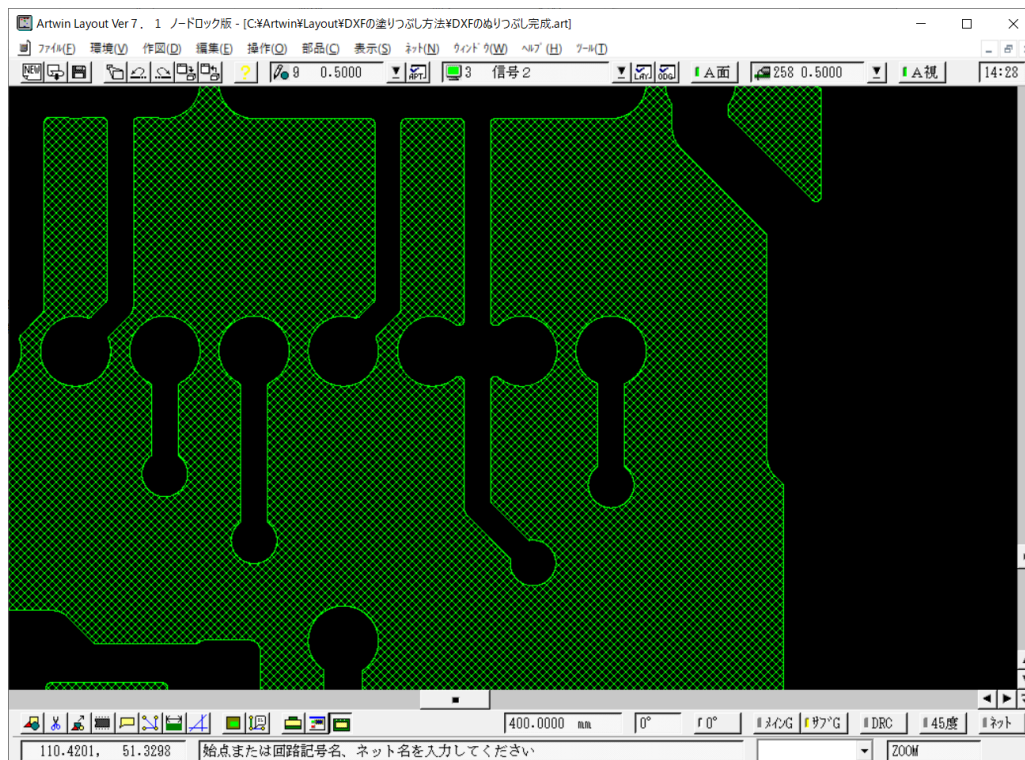
サイクル整形（一筆書き自動接続機能）

D X Fなどで読み込んだデータはよく見ると破線や重複線や点などがあり閉じられたデータではありません

目視できる箇所は、編集→接続コマンドで接続しておきます。

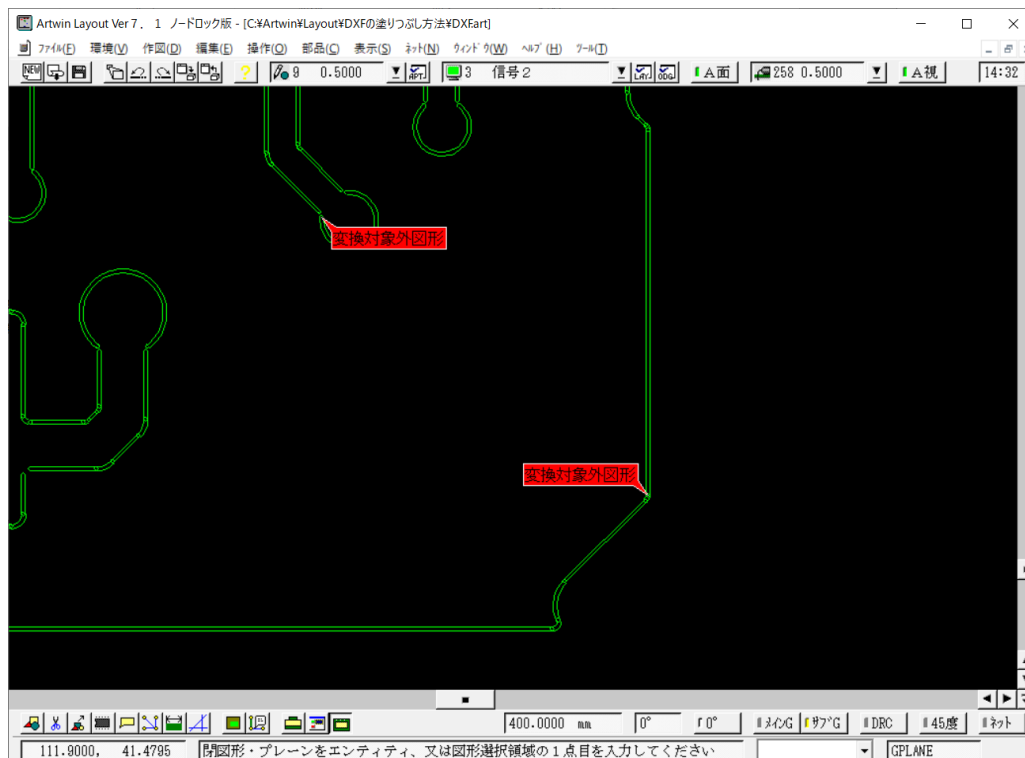


全て閉じられたデータであれば、作図→プレーン→プレーン変換でプレーン化できます。



作図→プレーン→プレーン変換で変換対象外図形というメッセージ等が表示される場合は、

破線や重複線や点などがあり閉じられたデータではないと思われます。



編集→サイクル→サイクル設定をひらきパラメーターを入力します。

(1) 丸めトレランス

サイクル整形で同一点とみなす距離を設定します。

設定できる範囲は $0.0001 \leq \text{丸めトレランス} < \text{アートワーク領域の領域長}$ です。

初期値は「0.0002」です。

(2) 接続トレランス

サイクル整形で端点同士を接続する距離を設定します。

設定できる範囲は $0.0001 \leq \text{丸めトレランス} < \text{アートワーク領域の領域長}$ です。

初期値は「1.0000」です。

サイクル整形用トレランス設定

丸めトレランス: 0.0002 mm

接続トレランス: 1.0000 mm

OK

キャンセル

マニュアル参照

サイクル設定が完了しましたらサイクル整形を実行します。

サイクル図形をプレーン様に整形します。

メッセージにしたがって要素をピックするまたは、エンターを押して全図形を選択します。

今回は、エンターを押して全図形を一筆書きにします。

作図→プレーン→プレーン変換で再度プレーン化します。

